

♪ 無料音声教材 ♪

倍速再生 OK！

<物語文がみるみる得意になる語彙 600>



1回たったの9分です。例文の状況を想像しながら繰り返し聞いてもらえれば、
物語文がみるみる得意になりますよ！

中学受験鉄人会

第1回 No.1~No.30



No.1『あからさま』⇒隠すことなく明らかな様子。

[例文] 私の顔を見るなり彼女はあからさまに嫌な顔をした。

No.2『マニュアル』⇒説明書。

[例文] 先輩たちがマニュアルを作ってくれていたおかげで、作業がスムーズに進んだ。

No.3『もどかしい』⇒思い通りにならずイライラする。じれったい。

[例文] 伝えたい想いはたくさんあるのに、うまく言葉にできずもどかしい。

No.4『おぼつかない』⇒しっかりとしない様子。あやふや。

[例文] おばあちゃんのおぼつかない足取りに気づいた兄はそっと手を貸した。

No.5『なおざり』⇒いい加減な様子。

[例文] 先生は僕たちをなおざりにして、ちゃんと話を聞いてくれない。

No.6『おざなり』⇒その場限りで適当であること。

[例文] 先生にいくら質問しても、おざりな答えしか返ってこない。

No.7『おもむろに』⇒動作がゆっくりしている様子。

[例文] しばらく黙っていた彼がやがておもむろに話し出した。

No.8『はかばかしい』⇒物事が順調に進む様子。

[例文] あれだけ練習してきたのに、はかばかしい結果が得られず悔しい。

No.9『鷹揚（おうよう）』⇒ゆったりしている。おっとりしている。

[例文] 君の親は鷹揚としていていいねとよく言われる。

No.10『センチメンタル』⇒涙もろい様子。感傷的。

[例文] 昨日まであんなに騒いでいたのに、卒業式当日はさすがにみんなセンチメンタルになっていた。

No.11『所在（しょざい）ない』⇒することがなくて退屈な様子。

[例文] 部活帰りの電車で所在なげに窓の外を見ている後輩を見かけた。

No.12『いたいけ』⇒幼くて可愛い様子。

[例文] 小さい頃はいたいけで愛らしかった弟も、今ではすっかり生意気になった。

No.13『こともなげ』⇒軽々と言う様子。

[例文] 一回聞いただけなのに、彼はその曲をこともなげに弾いてみせた。

No.14『至れり尽くせり』⇒配慮が行き届いていて完璧である。

[例文] 春から進学する学校は、スポーツをするには至れり尽くせりの環境が整っている。

No.15『まんざらでもない』⇒全くダメと言うわけではない。またはかなり良い。

[例文] 普段は硬派をきどっている息子もバレンタインにチョコレートをもってまんざらでもない様子だ。

No.16『おしなべて』⇒全体的に。だいたい。

[例文] サッカー部の今年の新入部員はおしなべて足が速い。

No.17『野放図 (のほうず)』⇒自由気まま。だらしない。

[例文] 学生時代の先生は気ままに旅をしながら、野放図な生活を送っていたらしい。

No.18『心酔 (しんすい)』⇒夢中になること。心から尊敬すること。

[例文] 彼は最近、クラシック音楽に心酔しているようだ。

No.19『おずおず』⇒恐る恐る。

[例文] 久しぶりに登校した彼女は、不安げに教室を見回しておずおずと席に着いた。

No.20『逆手 (さかて) にとって』⇒不利な状況を逆に利用すること。

[例文] 口が達者なうちの娘は、親の言い分を逆手にとって言い返してくる。

No.21『うのみ』⇒人から言われたことをそのまま受け入れること。

[例文] 彼女の言うことを鵜呑みにせず、他の人の意見も聞いておくべきだった。

No.22『生返事』⇒いいかげんな返事。

[例文] 野球好きのうちのお父さんは、プロ野球中継が始まると何を話しかけても生返事ばかりだ。

No.23『つぶさに』⇒細かいところまで詳しく。

[例文] 監督は相手チームの動きをつぶさに観察し、弱点を見つけ出した。

No.24『なじる』⇒相手を責めて問い詰める。

[例文] 親にどんなになじられようが、私は夢をあきらめなかった。

No.25『一筋なわではいかない』⇒普通のやり方では思い通りにならない様子。

[例文] 人一倍強情な父を説得するのは一筋縄ではいかないだろう。

No.26『やまやま』⇒強くそうしたいと思うけれど、なかなかできない様子。

[例文] 練習に参加したいのは山々だけど、今は怪我を治すことに専念しよう。

No.27『お門違い』⇒見当違い。

[例文] 自分の成績が伸びないことを、先生のせいにするのはお門違いだ。

No.28『きまり悪い』⇒かっこ悪く恥ずかしい様子。

[例文] 彼は自分の出した答えが正しいと言い張っていたが、間違いに気づくと、きまり悪そうに教室を出ていった。

No.29『生半可 (なまはんか)』⇒中途半端な様子。

[例文] 彼の音楽にかける思いは生半可なものではなかった。

No.30『折にふれて』⇒機会があればいつも。

[例文] お母さんは、折にふれて、学生時代の楽しかった思い出話をしてくれる。



No.31『悠長（ゆうちょう）』⇒のんびりとしている様子。

〔例文〕今この時間にもライバルが練習しているかと思うと、悠長に構えてはいられない。

No.32『たちどころに』⇒すぐその場で結果が出る様子。

〔例文〕他の人には隠せても、親友の彼には僕の気持ちがたちどころにばれてしまう。

No.33『多かれ少なかれ』⇒多い少ないの違いはあっても。

〔例文〕誰にでも多かれ少なかれ人には言えない秘密があるものだ。

No.34『ひしめく』⇒多くの人が1つの場所に集中している様子。

〔例文〕マラソン大会当日は、寒空の下、スタート地点にたくさんの生徒がひしめき合っていた。

No.35『切羽つまる』⇒物事が間近に迫って追い詰められる。

〔例文〕普段あまり話さない彼が、僕に頼んでくるとはよほど切羽詰まっているのだろう。

No.36『俊足』⇒足が速いこと。

〔例文〕彼は俊足を発揮して多くのランナーを抜き去り一番にゴールテープを切った。

No.37『望外（ぼうがい）』⇒望み以上に良い結果であること。

〔例文〕たくさんの選手がいる中で私が選ばれたのは望外なことだった。

No.38『筋金（すじがね）入り』⇒精神身体などが鍛えられてしっかりしていること。

〔例文〕おじいちゃんは筋金入りの職人気質だ。

No.39『あながち』⇒全面的に断定できないという話し手の気持ちを表す。

〔例文〕UFOを見たという人がいるが、あながち、いいかげんな話とも思えない。

No.40『ひとしきり』⇒しばらくの間、盛んな状態が続くさま。

〔例文〕ひとしきり泣いたら、気が晴れた。

No.41『あくなき』⇒飽きることなく。どこまでも満足することのない。

〔例文〕冒険家のあくなきチャレンジ精神には頭がさがる。

No.42『おとなびる』⇒体型や言動が大人らしくなる。

〔例文〕入学式で真新しい制服を身にまとった彼はおとなびて見えた。

No.43『無頓着（むとんちゃく）』⇒物事にこだわらないこと。

〔例文〕彼は髪型にはてんで無頓着だ。

No.44『克明（こくめい）』⇒あいまいなところがないように細かなところまで念を入れること。

〔例文〕あの時のことは克明に記憶している。

No.45『役不足』⇒その人の力量に比べて与えられた役目が軽すぎることを。

〔例文〕前の学校で生徒会長を務めていた彼女にとっては今の役職は役不足だろう。

No.46『ほのめかす』⇒それとなくそぶりや言葉に表して示す。におわせる。

〔例文〕記者会見で首相は辞任をほのめかした。

No.47『買いかぶる』⇒能力などを実質以上に高く評価する。

[例文] みんな僕のことを買いかぶりすぎだ。

No.48『往年』⇒過ぎ去った昔。盛んだった一時期を回想するときに使う。

[例文] お祖父ちゃんの家には、往年の名横綱の手形がある。

No.49『全う(まっとう)する』⇒完全に成し遂げる。完全に果たす。

[例文] 彼女は運動会で応援団長の役目を見事に全うした。

No.50『そっけない』⇒冷淡で、相手に対する思いやりがない。愛想がない。

[例文] 急に話かけられて、つい、そっけない態度をとってしまった。

No.51『はにかむ』⇒恥ずかしがる。恥ずかしそうなそぶりや表情をする。

[例文] 久しぶりに会ったところは、はにかんでしばらく隠れていた。

No.52『閉口』⇒どうにもならなくて困ること。手に負えないこと。

[例文] 彼女の自分勝手な態度にまわりのみんなは閉口していた。

No.53『割愛(かつあい)』⇒惜しいと思いながら、思いきって捨てること。

[例文] 七夕の短冊が小さすぎたので、たくさん願いごとを泣く泣く割愛した。

No.54『まざまざ』⇒目の前で見えるようにはっきりしているさま。

[例文] 100メートル走で、彼との力の差をまざまざと見せつけられた。

No.55『そそくさ』⇒態度や動作が落ち着かないさま。せわしないさま。

[例文] 一緒に帰ろうと思っていたのに、彼はそそくさと先に帰ってしまった。

No.56『独壇場(どくだんじょう)』⇒その人だけが思いのままにふるまうことのできる場所や場面。

[例文] 歌を歌わせたら彼の独壇場だ。

No.57『往々(おうおう)にして』⇒そうなることがしばしばあるさま。

[例文] 勉強しなさいと言われると往々にして、やりたくなる。

No.58『もくろみ』⇒計画。くわだて。

[例文] ゲームを買ってもらってもくろみは残念ながら消えてしまった。

No.59『席卷(せっけん)』⇒むしろを巻くように、片端から領土を攻め取ること。また、激しい勢いで自分の勢力範囲に収めること。

[例文] 日本のアニメーション映画は公開されるやいなや世界を席卷した。

No.60『歯がゆい』⇒思うようにならなくてもどかしい気持ちだ。じれったい。

[例文] 思いを上手く伝えられず歯がゆい気持ちになった。



No.61『不躰（ぶしつけ）』⇒礼儀をわきまえていないこと。無作法。無礼。

[例文] いつも冷静な彼が珍しく先生に対して不躰な態度をとった。

No.62『現金な』⇒目先の利益によってすぐに考えや態度を変えるさま。

[例文] 「お小遣いをもらえると聞いた途端にお手伝いをしだすなんて何て現金なんだ。

No.63『折り紙付き』⇒保証があるもの。確かなもの。

[例文] このお店のチーズケーキの美味しさは折り紙つきだよ。

No.64『闇雲（やみくも）に』⇒見通しもなく物事を行うこと。思慮分別がないこと。

[例文] 大切なものを失くしてしまい、闇雲に探し回った。

No.65『寛容』⇒心が広く、人の言動をよく受け入れること。また、人の過ちや欠点をきびしくせめないこと。

[例文] 昔は鬼と恐れられたコーチも今ではすっかり寛容になった。

No.66『やおら』⇒ものごとの起こり方がゆっくりであるさま。おもむろに。

[例文] 先生はやおら立ち上がり静かに話し始めた。

No.67『たどたどしい』⇒動作・話し方などがなめらかでないさま。未熟で頼りない。危なっかしい。

[例文] 自転車の補助輪が取れたばかりで運転がたどたどしい。

No.68『ほどなく』⇒あまり時間がたたないうちに。まもなく。

[例文] 年が明けるとほどなくして、中学受験が始まる。

No.69『ひたすら』⇒そのことだけに心を集中する様子。

[例文] 高校時代は、甲子園出場だけを目指してひたすら練習に打ち込んでいた。

No.70『いぶかしい』⇒不審に思う様子。疑わしい。

[例文] 全身黒づくめのソワソワした人物を刑事はいぶかしく思い、後をつけた。

No.71『邪険（じゃけん）』⇒思いやりがなく、人をむごく扱うこと。

[例文] イライラしていて友達に邪険な態度をとってしまった。

No.72『さぞかし』⇒どんなにか。

[例文] 長年の夢が叶ってさぞかし嬉しいだろうな。

No.73『いたたまれない』⇒その場にそれ以上じっとしてられない。

[例文] 僕をかばって責められている友達の姿を見て、いたたまれない気持ちになった。

No.74『うってつけ』⇒希望や条件にぴったりと当てはまる様子。最適。

[例文] このリュックは、ポケットがいっぱいあってキャンプにうってつけだ。

No.75『紅潮』⇒運動・興奮・緊張などで、顔に赤みがさすこと。

[例文] 弱小チームだった僕らが決勝戦までたどり着いて、みんなまだ頬が紅潮している。

No.76『いじらしい』⇒幼い者や弱い者の懸命な様子を見て、無邪気がかわいらしいと思う様子。

[例文] 一生懸命に寝返りを打とうとしている赤ちゃんの姿が、たまらなくいじらしい。

No.77『無造作』⇒たやすく物事を行うこと。おおざっぱに物事を行うこと。

[例文] 児童館の玄関では、みんなの靴が無造作に散らかっていた。

No.78『夢うつつ』⇒夢とも現実とも区別がつかないこと。意識がぼんやりしていること。

[例文] 夢うつつの中で物音がしているような気がしたが、父がお弁当を作ってくれている音だった。

No.79『傍若無人 (ぼうじゃくぶじん)』⇒人前をはばからず、勝手気ままにふるまうこと。

[例文] 彼のあまりに傍若無人な態度に僕はがまんできなかった。

No.80『とみに』⇒急に。にわか。

[例文] 高校生になった娘は近ごろとみにおとなびてきた。

No.81『疎遠 (そえん)』⇒交際・音信などが途絶えて親しみが薄れること。

[例文] 転校してすっかり疎遠になっていた友達から久しぶりに手紙が届いた。

No.82『質素 (しっそ)』⇒身なり・暮らしぶりなどに無駄な金をかけず、地道でつつましいこと。

[例文] 大河ドラマを見ていると、昔の日本人は質素な暮らしをしていたことがわかる。

No.83『止めどなく (とめどなく)』⇒とどまるどころなく。際限なく。

[例文] 僕はとめどなくあふれる涙をおさえることができなかった。

No.84『劳う (ねぎらう)』⇒劳苦や骨折りに感謝する。同等または目下の相手に使う。

[例文] 学級委員を1年間勤め上げ、先生に劳いの言葉をかけてもらった。

No.85『がさつ』⇒言葉や動作が荒っぽく、細かいところまで気がまわらないさま。

[例文] 彼はがさつで気の利かないやつだけど、なぜか憎めない。

No.86『スリリング』⇒はらはらさせる様子。

[例文] 試合は逆転に次ぐ逆転でスリリングな展開となった。

No.87『本末転倒 (ほんまつてんとう)』⇒大切なことと、つまらないことを取り違えること。

[例文] 試合に勝つために無理な練習をしてケガをしてしまっは本末転倒だ。

No.88『あうんの呼吸』⇒二人以上で物事をするときに、互いが感じる微妙な心の動き。

[例文] 漫才師の軽妙なやりとりは、まさにあうんの呼吸だ。

No.89『コントラスト』⇒二つのものを対比させたときの違い。

[例文] あの夏の、空の青さと雲の白さの美しいコントラストがまぶたに焼き付いている。

No.90『自負 (じふ)』⇒自分に自信を持ち、誇りに思うこと。

[例文] 彼女は、この学校のファッションリーダーを自負しているらしい。



No.91『たしなめる』⇒よくない言動に対して、おだやかに注意を与える。

〔例文〕つい知ったかぶりをしてしまい、先生にたしなめられてしまった。

No.92『律儀（りちぎ）』⇒きわめて義理がたいこと。実直なこと。

〔例文〕彼は律儀にも待ち合わせの20分前にはいつも到着している。

No.93『もてあます』⇒うまく扱うことができなくて困る。手に負えなくて困る。

〔例文〕さすがの先生もひねくれ者の彼をもてあましている。

No.94『気圧（けお）される』⇒相手の勢いなどに気持ちの上で圧倒される。

〔例文〕僕らは去年の優勝チームの雰囲気ですっかり気圧されてしまった。

No.95『形相（ぎょうそう）』⇒激しい感情のあらわれた顔つき。

〔例文〕彼は鬼の形相でゴールを守り続けた。

No.96『物腰（ものごし）』⇒他人と接するときの態度や言葉遣い。

〔例文〕新しい先生は物腰が柔らかくて話しやすい。

No.97『おおわらわ』⇒けんめいになって物事をする様子。

〔例文〕先生達は、卒業式の準備でおおわらわだ。

No.98『無然（ぶぜん）』⇒落胆して、また、驚きあきれて、呆然とする様子。

〔例文〕納得のいかない彼女は無然とした態度で教室を出ていった。

No.99『うやむや』⇒どうなっているのか、はっきりしない様子。あやふや。

〔例文〕母の本心を聞きたかったのにうやむやにされてしまった。

No.100『面目（めんぼく）』⇒世間に対する名誉・体面。また、世間から受ける評価。めんもくとも読みます。

〔例文〕みんなの前で間違いを指摘をされて面目丸つぶれだ。

No.101『気丈（きじょう）』⇒気持ちがしっかりしていること。

〔例文〕高校生活最後の試合に負けたのにキャプテンは気丈にみんなに声をかけていた。

No.102『たじろぐ』⇒相手の勢いなどに圧倒されてひるむ。しりごみする。

〔例文〕彼女の鋭い質問に先生がたじろいでいた。

No.103『片鱗（へんりん）』⇒きわめてわずかな部分。

〔例文〕運動会の準備で彼のリーダーとしての片鱗が見えた。

No.104『余念（よねん）がない』⇒ほかのことは考えないで、ひとつのことに没頭する。

〔例文〕心配性な彼女は明日の準備に余念がない。

No.105『かきいれ時（どき）』⇒商店などで、売れ行きが最もよく、もうけのきわめて多い時。

〔例文〕母の日の前になると、花屋さんは一番のかきいれ時を迎える。

No.106『しどろもどろ』⇒ことばや話の内容がひどく乱れる様子。

[例文] 刑事に追い詰められた真犯人は次第に口調がしどろもどろになって行った。

No.107『図太(ずぶと)い』⇒人の言うことや人目を気にせず、平気でいられる様子。

[例文] こんな時でも笑っていられる彼の図太さが羨ましい。

No.108『不意(ふい)』⇒思いがけないこと。突然であること。

[例文] 彼女の転校を不意に聞かされ、目の前が真っ暗になった。

No.109『二つ返事』⇒快くすぐに承諾すること。

[例文] 急な誘いにも関わらず、彼は二つ返事で駆けつけてくれた。

No.110『意に介す』⇒気にかける。気にする。

[例文] まわりからとやかく言われても、一向に意に介する様子を見せない。

No.111『毅然(きぜん)』⇒意志がしっかりしていて、ものに動じない様子。

[例文] たとえ大人であろうと、相手が悪いと思えば毅然とした態度で立ち向かう。

No.112『勘繰(かんぐ)る』⇒気を回して悪い意味に推察する。

[例文] 友達が隠し事をしているのではないかと、つい勘ぐってしまう。

No.113『後ろめたい』⇒自分が悪いことをしたと感じる。気がとがめる。

[例文] 名乗り出る勇気がなくて、後ろめたさを感じる。

No.114『どぎまぎ』⇒不意をつかれて平静さを失う様子。うろたえる様子。

[例文] 憧れの先輩とばったり会ってどぎまぎした。

No.115『素振(そぶり)り』⇒動作・態度や表情にあらわれた様子。

[例文] 慌てた素振りで何かを隠した。

No.116『さしたる』⇒(下に打消しを伴って)取りたててこれというほどの。さほどの。

[例文] さしたる自身もないけれど、挑戦してみよう。

No.117『誇張(こちょう)』⇒実際よりも大げさに表現すること。また、その内容。

[例文] 噂とはたいい真実よりも誇張されているものだ。

No.118『驚嘆(きょうたん)』⇒非常に驚いて感心すること。

[例文] その美しい歌声に会場中から驚嘆の声が上がった。

No.119『おどける』⇒こっけいな言動をしてみせる。

[例文] 心配させまいとおどけて見せた。

No.120『見くびる』⇒あなどって軽く見る。見くだす。

[例文] 見くびるような目で見られて、悔しい思いをした。



No.121『ひっきりなし』⇒絶え間なく続く様子。

[例文] 新しくオープンしたあのお店はひっきりなしにお客さんが訪れている。

No.122『ごちない』⇒不慣れであったり緊張・遠慮をしたりして、物事がうまく行えない様子。

[例文] 昨日、喧嘩してしまい今朝はお互いごちなく笑い合う感じだった。

No.123『思い詰(つ)める』⇒そのことだけを深く思い込んで苦しむ。

[例文] いつも明るい彼女が思い詰めた表情を浮かべていた。

No.124『言い淀(よど)む』⇒言おうとしてためらう。ことばが出てこなくてつかえる。

[例文] 彼は友達を気遣って言い淀んでいる。

No.125『おぼしい』⇒～と思われる。

[例文] 彼のおじいさんとおぼしき人が出迎えてくれた。

No.126『該当(がいとう)』⇒一定の条件、資格などに当てはまること。

[例文] 今年の書道コンクールの金賞は該当者なしとなった。

No.127『拍子抜け(ひょうしぬけ)』⇒緊張が急にゆるんでがっかりすること。張り合いがなくなること。

[例文] 思いの外、あっさりと引き受けてくれて拍子抜けした。

No.128『疎か(おろそか)』⇒物事をいいかげんにしてすませること。なおざり。

[例文] 連休中も勉強が疎かにならないように気をつけよう。

No.129『皆目(かいもく)』⇒まったく。

[例文] 彼がなぜ怒ったのか僕には皆目見当がつかない。

No.130『片時(かたとき)』⇒わずかの間。

[例文] 彼はお守りを片時も離さず身に着けている。

No.131『鼻白む(はなじろむ)』⇒機嫌を損ねたり、興ざめする様子。しらける。

[例文] あまりに自分勝手な彼の態度にみんなが鼻白んでいる。

No.132『尻込む』⇒しりごみをする。ためらう。

[例文] まわりがみんな自信満々に見えて尻込みしてしまった。

No.133『侃々諤々(かんかんがくがく)』⇒互いに正しいと思うことを堂々と主張し、大いに議論すること。

[例文] 彼の一言がきっかけで侃々諤々の意見がかわされた。

No.134『怪訝(げげん)』⇒理由や事情がわからなくて、不思議に思うこと。

[例文] いつになく熱心に教室の掃除をしていたら、クラスの仲間たちから怪訝な顔で見られてしまった。

No.135『根負け（こんまけ）』⇒相手の根気強さに負けること。

〔例文〕先輩の熱心な誘いに根負けして入部を決めた。

No.136『しつらえる』⇒作り設ける。整える。また、飾りつける。

〔例文〕部屋にしつらえられた家具は、彼女のイメージにぴったりだった。

No.137『連想（れんそう）』⇒ある事柄から、それと関連のあるほかの事柄を思い浮かべること。

〔例文〕おはぎは田舎のおばあちゃんのことを連想させる。

No.138『せき立てる』⇒物事を早くするように強く促す。急がせる。

〔例文〕まるで、せきたてられるように走り出した。

No.139『変遷（へんせん）』⇒時代とともに移り変わること。

〔例文〕学校に飾られている航空写真を見ると時代の変遷を感じる。

No.140『存外（ぞんがい）』⇒物事の程度や様子が予想と異なること。思いのほか。

〔例文〕存外な難しさに面食らった。

No.141『不穏（ふおん）』⇒状況・情勢などがおだやかではないこと。危機や危険をはらんでいること。

〔例文〕私の不用意な一言で、教室は不穏な空気に包まれた。

No.142『陳腐（ちんぷ）』⇒古くさいこと。ありふれていて、つまらないこと。

〔例文〕そんな陳腐な言い訳は通用しない。

No.143『いかななく』⇒心残りなく。十分に。

〔例文〕毎日作ってくれるお弁当のおかげで、テストでいかななく実力を発揮することができた。

No.144『そらんずる』⇒そらで覚える。書いたものを見ないですむようにすっかり覚える。

〔例文〕毎日聞いていたら、歌詞をそらんじて歌えるようになった。

No.145『華奢（きゃしゃ）』⇒ほっそりとして品がよい様子。また、繊細で弱々しい様子。

〔例文〕華奢なわりに大きな声に驚いた。

No.146『力量（りきりょう）』⇒物事を成し遂げる能力の程度。

〔例文〕リーダーとしての僕の力量が試されている。

No.147『踏襲（とうしゅう）』⇒それまでのしきたりややり方を変えずに、そのまま受け継ぐこと。

〔例文〕僕の学校では、伝統を踏襲してふんどし一丁で遠泳を行う。

No.148『喧噪（けんそう）』⇒物事・人声などがやかましいこと。

〔例文〕毎年夏祭りが来ると、多くの人々の喧騒で埋め尽くされる。

No.149『どことなく』⇒どことはっきり示せないが、何となく。

〔例文〕顔がどことなく似ている気がする。

No.150『駆け出し（かけだし）』⇒その仕事を始めたばかりでまだ慣れていないこと。また、その人。

〔例文〕駆け出しの頃はつらい修業に耐える毎日だったそうだ。



No.151『しゃくり上げる』⇒繰り返し息を吸い上げるように激しく泣く。

[例文] 妹はよほど心細かったのか、私の顔を見るなり、しゃくり上げながら駆け寄ってきた。

No.152『確執 (かくしつ)』⇒互いに自分の意見を主張し、ゆずらないことから起きる仲たがひ。

[例文] 今となっては2人の確執を埋めるのは不可能に近い。

No.153『ひところ』⇒それほど遠くない以前のあるころ。ひととき。

[例文] ひところの迷いが晴れて、今はすっきりした気持ちだ。

No.154『格調 (かくちょう)』⇒芸術作品などに現れる品格や風格。

[例文] 骨董好きな母のコレクションには、格調高いものばかり集まっている。

No.155『釈然としない』⇒疑念や迷いが晴れず、すっきりしないさま。腑に落ちない。

[例文] 彼の言い分はもっともだが、どうも釈然としない。

No.156『斬新 (ざんしん)』⇒着想・趣向などがきわだって新しい様子。

[例文] そのアイデアはあまりに斬新だった為、最初は受け入れられなかった。

No.157『違和感 (いわかん)』⇒しっくりしない感じ。また、ちぐはぐに思われること。

[例文] 彼のふるまいは普段と変わらないはずなのに、どこか違和感を覚える。

No.158『奇抜 (きばつ)』⇒思いも及ばないほどすぐれていること。また、人の意表をつくほど風変りなこと。

[例文] 奇抜な服装だったので、すぐに彼だと気づかなかった。

No.159『卓越 (たくえつ)』⇒他をはるかに越えて、すぐれていること。

[例文] 卓越したリーダーシップを発揮してクラスをまとめ上げた。

No.160『抑揚 (よくよう)』⇒調子を上げたり下げたり、また、強めたり弱めたりすること。

[例文] 彼の抑揚のない話し方が、逆に説得力を持たせている。

No.161『きりもり』⇒物事をうまく処理すること。

[例文] 人気店なのに、たった一人できりもりしている。

No.162『きれぎれ』⇒いくつも小さく切れていること。また、途切れそうになりながら、かろうじて続くこと。

[例文] 彼は毎朝、息もきれぎれに教室に飛び込んでくる。

No.163『団欒 (だんらん)』⇒親しい人たちが集まってなごやかに時を過ごすこと。

[例文] 仕事で世界中を飛び回っているお父さんが帰ってきたので、今日は久しぶりの一家団欒だ。

No.164『入り浸る（いりびたる）』⇒よその家や特定の場所に通い続けたり、そこに居続けた
りすること。

〔例文〕お父さんは子供の頃、百円玉を握りしめて駄菓子屋に入り浸っていたそうだ。

No.165『懐柔（かいじゅう）』⇒うまく扱って、自分の思う通りに従わせること。

〔例文〕彼はクラスメイトを巧みな話術で次々と懐柔していった。

No.166『うずたかく』⇒物が幾重にも重なって、高く積み上げられているさま。

〔例文〕彼の部屋には宇宙に関する本がうずたかく積み上げられていた。

No.167『如才（じょさい）ない』⇒気がきいていて抜かりがないさま

〔例文〕いつの間にか如才ないふるまいを覚えてしまった。

No.168『軋轢（あつれき）』⇒争いあって不和になること。いざこざ。

〔例文〕家同士の軋轢のせいで、いとこと疎遠になってしまった。

No.169『だいそれた』⇒常識・道理などから大きくはずれている様子。

〔例文〕だいそれたことと思われるかもしれないけれど、僕の夢はノーベル賞をとることだ。

No.170『なりゆき』⇒物事が自然に推移して行く様子や過程。また、その結果。

〔例文〕やるだけやって、後はなりゆきに任せよう。

No.171『けたたましい』⇒急に高い声や音が響きわたって騒がしい様子。

〔例文〕その時、けたたましくドアをたたく音が部屋中に響いた。

No.172『まどろむ』⇒しばらくの間、浅く眠る。うとうとする。

〔例文〕電車で揺られて、つかの間まどろんだ。

No.173『逡巡（しゅんじゅん）』⇒決心がつかず、ためらうこと。しりごみすること。

〔例文〕逡巡しているうちにチャンスを逃してしまった。

No.174『織りなす』⇒織って模様などをつくる。また、様々な事柄が絡み合っ
て変化のある物
事をつくり出す。

〔例文〕いくつもの音色が織りなす彼らの演奏に圧倒された。

No.175『躍起（やっき）』⇒あせってむきになること。

〔例文〕彼女は躍起になって自分の主張を繰り返した。

No.176『辻褄（つじつま）』⇒前後に矛盾のない物事の筋道。

〔例文〕何かを隠しているのか、彼の話はどうも辻褄が合わない。

No.177『あり余る』⇒必要以上にある。余るほどある。

〔例文〕まるで、あり余るエネルギーを持って余しているようだ。

No.178『もはや』⇒すでに終わっていることを今あらためて認める気持ちを表す。今となっ
ては。

〔例文〕もはや私にはどうすることもできない。

No.179『おろか』⇒Aは言うまでもなくBにも範囲が及ぶという意味。

〔例文〕このままでは優勝はおろか、予選突破も難しい。

No.180『ひよんな』⇒思いがけない様子。意外な。

〔例文〕お父さんは、ひよんなことから地元の少年野球チームの監督を引き受けることになった。



No.181『つまびらか』⇒内容を細部まで明らかにする。詳細を明示する。

〔例文〕彼が転校していった本当の理由が、つまびらかにされることはないだろう。

No.182『たなびく』⇒薄く層をなした雲・霞などが横に長くただよう様子。

〔例文〕たなびく雲の切れ間から陽の光が差ししてきた。

No.183『そうそうに』⇒急いで物事をする様子。さっさと。

〔例文〕雲行きが怪しくなってきたので、そうそうに引き上げてきた。

No.184『つんけん』⇒話し方や態度が無愛想で、とげとげしい様子。

〔例文〕彼女は人見知り激しく、つい初対面の人につんけんしてしまう。

No.185『ままならない』⇒思い通りにならない。

〔例文〕怪我をしてしまい、練習はおろか歩くこともままならない状態だ。

No.186『生業（なりわい）』⇒生活をしていくための仕事。

〔例文〕この地域は、代々、農業を生業としている家が多い。

No.187『利発（りはつ）』⇒賢いこと。

〔例文〕小さい頃から利発そうな子だと言われてきた。

No.188『心なしか』⇒そう思うからか。気のせいかな。

〔例文〕風鈴の音を聞くと、心なしか体も涼しくなってゆくようだ。

No.189『身動き（みじろぎ）』⇒体をちょっと動かすこと。

〔例文〕あまりの恐怖に身じろぐこともできなかった。

No.190『柔和（にゅうわ）』⇒性質・表情がおだやかで、やさしいこと。

〔例文〕柔和な表情が一変して怒りの表情となった。

No.191『すこぶる』⇒程度がはなはだしい様子。非常に。たいそうに。

〔例文〕なぜだかあの日の父は、すこぶる機嫌がよかった。

No.192『気さく』⇒気どりがなく、うちとけやすい様子。

〔例文〕転校初日に気さくに声をかけてくれたのが彼だった。

No.193『打ち解ける（うちとける）』⇒心のへだてがなくなって親しむ。

〔例文〕帰り道が一緒だったことで、すぐに打ち解けることができた。

No.194『狼狽（ろうばい）』⇒思いがけない出来事に、あわてふためくこと。

〔例文〕彼のあまりの狼狽ぶりにただごとでないことを察した。

No.195『面映ゆい（おもはゆい）』⇒照れくさく感じる。恥ずかしい。

〔例文〕当たり前のことをしたただけなのに、思いのほか感謝されて面映ゆい気持ちになった。

No.196『ひときわ』⇒他とくらべて特にきわだっている様子。

〔例文〕彼の絵は、数ある作品の中でもその色使いでひときわ目立っていた。

No.197『ことごとく』⇒問題にしているもの全部。残らず。

[例文] 誰が話しかけても、彼はことごとく無視した。

No.198『こぢんまり』⇒小さいがほどよくまとまって、落ち着いている様子。

[例文] 引っ越してきた町は、人口も少なくこぢんまりとしている。

No.199『あかぬける』⇒洗練されて野暮なところがなくなる。

[例文] 見た目はすっかりあかぬけたが、話してみると昔の彼のままだった。

No.200『つけんどん』⇒態度やことばづかいが冷淡でとげとげしい様子。

[例文] つけんどんな物言いのせいで、彼女はクラスで浮いた存在になっている。

No.201『収拾(しゅうしゅう)』⇒混乱した物事などをとりまとめること。

[例文] 誤解が誤解を呼び、収拾がつかなくなった。

No.202『憶測(おくそく)』⇒根拠もなく、いいかげんに推測すること。

[例文] 理由がきちんと説明されなかったことで、様々な憶測を呼んだ。

No.203『やぶれかぶれ』⇒どうにでもなれという気持ちになること。

[例文] その当時の私は、何をやってもうまくいかず、やぶれかぶれになっていた。

No.204『こわばる』⇒やわらかいものが、つっぱったように固くなる。

[例文] その話題になったとたん、父の表情が急にこわばった。

No.205『うとましい』⇒好感が持てず遠ざけたい。

[例文] あまりに頻繁に連絡してくるので、だんだんうとましくなってきた。

No.206『手もちぶさた』⇒何もすることがなくて暇をもてあますこと。

[例文] 手もちぶさたにしていたところ、友達が訪ねて来てくれた。

No.207『高揚(こうよう)』⇒精神や気分が高まること。また、高めること。

[例文] 思い切ってチャレンジしてみたところ、今まで味わったことがないような高揚感が得られた。

No.208『没頭(ぼつとう)』⇒他をかえりみず、一つのこと熱中すること。

[例文] 一つのこと没頭している彼が羨ましい。

No.209『慢心(まんしん)』⇒おごり高ぶること。また、その心。

[例文] あまりにうまくいきすぎて、慢心が生まれてしまった。

No.210『頑(がん)として』⇒強く自説を主張し、人の言うことを聞き入れない様子。頑固に。

[例文] 誰が説得しても彼は頑として受け入れなかった。



No.211『おおらか』⇒心がゆったりとして、細かいところにこだわらない様子。

[例文] 彼はおおらかなのはいいけれど、時間にルーズなのが玉にきずだ。

No.212『手当たりしだい』⇒手にふれるものを区別しないで、何にでも行為を及ぼす様子。

[例文] 飼い猫がいなくなってしまって、僕たちは手当たり次第に探し回った。

No.213『反射的』⇒刺激に対して無意識のうちに瞬間的に反応する様子。

[例文] あの先生の言葉には反射的に反論してしまう。

No.214『歓待(かんたい)』⇒心をこめて、手厚くもてなすこと。

[例文] 友達の家にはじめて遊びにいったら、思いのほか歓待されて戸惑った。

No.215『まくしたてる』⇒威勢よく一方的にしゃべり続ける。

[例文] 彼女は自分の意見を否定されてむきになってまくしたてた。

No.216『つねづね』⇒いつも。ふだん。

[例文] 先輩たちは僕たちが早く学校になじめるようにつねづね気にかけてくれている。

No.217『やきもき』⇒あれこれと気をもんでいらだつ様子。

[例文] 彼が余計なことを言うてしまうのではないかとやきもきした。

No.218『熾烈(しれつ)』⇒勢いが盛んで激しいこと。

[例文] 去年の生徒会選挙は熾烈な争いだった。

No.219『めっきり』⇒変化がはっきり感じられる様子。きわだって。

[例文] 9月に入り、セミの鳴き声がめっきり聞こえなくなった。

No.220『くぐもる』⇒声などが内にこもる。

[例文] くぐもった声が、彼女の微妙な立場を物語っている。

No.221『てきめん』⇒ある物事の結果・効果・報いなどが即座に現れること。

[例文] 違う薬に変えてみたところ、効果がてきめんに表れた。

No.222『剣幕(けんまく)』⇒いきりたった、荒々しい顔つきや態度。

[例文] あまりの剣幕に僕たちはその場で凍りついた。

No.223『地道(じみち)』⇒地味な態度で、手堅く着実に物事をする事。

[例文] 記録が大きく更新されたのは地道な練習の賜物だ。

No.224『境遇(きょうぐう)』⇒その人が置かれている立場や環境。

[例文] いつも明るい彼が、そんな境遇にあるとは思ってもよらなかった。

No.225『均整(きんせい)』⇒全体がつりあって整っていること。

[例文] 均整のとれた体つきで力強く走っている彼女がうちの学校のエースだ。

No.226『腹をくくる』⇒決心を固める。覚悟を決める。

[例文] この道で生きていくと腹をくくった。

No.227『そぞろ』⇒そわそわする様子。

[例文] コンクールの結果が気になって彼女は気もそぞろだ。

No.228『喝采 (かっさい)』⇒声を上げて、さかんにほめること。

[例文] 幕が上がった時に彼女を待っていたのは盛大な喝采だった。

No.229『醸し出す (かもしだす)』⇒ある気分や感じをそれとなくつくりだす。

[例文] 彼の醸し出す空気が拒絶を表していた。

No.230『たたみかける』⇒相手に余裕を与えないように、立て続けに働きかける。

[例文] ここぞとばかりに一気にたたみかけた。

No.231『意固地 (いこじ)』⇒意地を張って、つまらぬことに頑固なこと。

[例文] どんな慰めの言葉も彼を余計に意固地にさせるだけだった。

No.232『異存 (いぞん)』⇒反対の意見。

[例文] 彼女の抜擢に異存がある人はいないだろう。

No.233『心もとない』⇒どこか頼りなくて不安に思う様子。

[例文] チームに彼女がいないと心もとない。

No.234『やるせない』⇒悲しみや寂しさなどを晴らすことができない様子。また、そのためにつらい気持ちである。

[例文] すべての事情を知っている彼はやるせない表情を見せた。

No.235『いきさつ』⇒物事がそこに至るまでの事情や経過。

[例文] いきさつも知らないで勝手なことを言わないで欲しい。

No.236『大っぴら』⇒人目をはばからない様子。また、表だって明らかになる様子。

[例文] 思わぬことから隠し事が大っぴらになってしまった。

No.237『不本意 (ふほんい)』⇒自分の本当の気持ちとは異なること。

[例文] この結果は彼にとっては不本意なものであろう。

No.238『気立て (きだて)』⇒他人に接する態度などにあらわれる、その人の心の持ちよう。

[例文] 彼の気立ての良さがクラスの雰囲気や和らげてくれる。

No.239『気まま』⇒自分の思うままにふるまうこと。

[例文] 勝手気ままに振る舞う彼にどこか羨ましさを感じる。

No.240『つつがなく』⇒病気・災難などの異常がない様子。平穩無事である。

[例文] 去年とは打って変わって今年の生徒会選挙はつつがなく終わった。



No.241『やんわり』⇒やわらかである様子。穏やかに。

[例文] あてにしていたのに、やんわり断られてしまった。

No.242『胆力 (たんりょく)』⇒簡単には物事に動じない気力。度胸。

[例文] 誰もがしり込みしてしまうあの場面でも冷静に行動した彼の胆力には驚かされた。

No.243『折り合う』⇒対立している者が、ゆずり合って意見を一致させる。

[例文] あの当時、私は父とうまく折り合うことができなかった。

No.244『こまめ』⇒労を惜しまず、気軽によく働く様子。

[例文] あのつらい時期に、こまめに連絡をくれたことにとっても感謝している。

No.245『罪滅ぼし (つみほろぼし)』⇒良いことをして過去の罪を埋め合わせること。

[例文] 彼は罪滅ぼしのつもりなのか、憎まれ役を買って出てくれた。

No.246『合点 (がてん)』⇒同意すること。納得すること。

[例文] すべてのいきさつを知って、ようやく合点がいった。

No.247『心底 (しんそこ)』⇒心の底から。

[例文] 親友だと思っていた彼の言葉が嘘だと知って、心底がっかりした。

No.248『調達 (ちょうたつ)』⇒必要なものなどをとりそろえること。

[例文] どこで調達してくるのか、彼の部屋はガラクタでいっぱいになっている。

No.249『精通 (せいとう)』⇒ある物事についてくわしく知っていること。

[例文] この町の地理に精通している彼はすべての裏道を把握している。

No.250『到底 (とうてい)』⇒どうしても。どうやったところで。

[例文] 到底間に合わないと思っていたところ、友達が手伝いにきてくれた。

No.251『おぼろげ』⇒ぼんやりしている様子。

[例文] おぼろげな記憶だけど、たしかここに彼の家があったはずだ。

No.252『車座 (くるまざ)』⇒多くの人が輪の形にならび、内側を向いて座ること。

[例文] 気が付くとみんなが車座になって彼女の話を中心に聞いていた。

No.253『示唆 (しさ)』⇒それとなく教え示すこと。ほのめかすこと。

[例文] ふと見せた悲しげな表情が、彼の置かれたつらい環境を示唆していた。

No.254『思わせぶり』⇒何か意味がありそうな言葉やしぐさで期待をもたせること。

[例文] 彼の思わせぶりの物言いに僕たちはすっかり騙されてしまった。

No.255『気兼ね (きがね)』⇒他人を気遣って遠慮すること。

[例文] 初めて気兼ねなくものを言い合える友達ができる。

No.256『理不尽』⇒物事の筋道が立たないこと。道理に合わないこと。

[例文] その規則はどう考えても理不尽だ。

No.257『従順』⇒素直で人に逆らわないこと。

〔例文〕幼いころは兄に従順だったが、今はライバルだと思っている。

No.258『すかさず』⇒間をおかないで行動する様子。すぐさま。

〔例文〕先生の質問に彼女はすかさず答えてみせた。

No.259『三々五々（さんさんごご）』⇒三人ずつ、五人ずつというように、少人数がまとまって行動する様子。

〔例文〕集合時間が近づいてきて、三々五々、クラスのみんなが集まってきた。

No.260『盛況（せいきょう）』⇒人が多く集まって、活気にあふれている状態。

〔例文〕イベントは観客が会場に入りきれないほどの盛況ぶりだった。

No.261『唐突（とうとつ）』⇒前ぶれもなく突然に物事を始めること。

〔例文〕唐突に当時の記憶がよみがえってきた。

No.262『さりとして』⇒そうだからといって。

〔例文〕引っ越してきた家は、部屋は少し狭いが、さりとして居心地が悪いわけではない。

No.263『露骨（ろこつ）』⇒あからさまなこと。むきだしなこと。

〔例文〕彼の僕へのライバル心が日に日に露骨になってくる。

No.264『杞憂（きゆう）』⇒する必要のない心配。取り越し苦労。

〔例文〕どうなることかと気を揉んだが、杞憂に終わった。

No.265『几帳面（きちょうめん）』⇒性格や行動が折り目正しく、細かなところまできちんとしていること。

〔例文〕綺麗に折りたたまれたハンカチに彼の几帳面さが表れている。

No.266『案の定（あんのじょう）』⇒予想通りの結果になる様子。

〔例文〕悪い予感はしていたが、案の定、悪い知らせだった。

No.267『悪びれる（わるびれる）』⇒恥ずかしがる。自分のしたことを悪いと思う。

〔例文〕謝るところか悪びれる様子もない。

No.268『澁漉（はつらつ）』⇒動作・表情などが生き生きとして元気のよい様子。

〔例文〕入学式の会場は、はつらつと前を向く新入生であふれていた。

No.269『片っ端（かたっぱし）から』⇒順序を問わず、何にでも行為を及ぼす様子。

〔例文〕目の前に並んだ料理を片っ端から平らげていった。

No.270『迂闊（うかつ）』⇒うっかりしていて心の行き届かないさま。

〔例文〕迂闊にも口を滑らせてしまった。



No.271『功績（こうせき）』⇒あることのために成し遂げた、すぐれた働き。

〔例文〕 サッカー部が全国大会に出られたのは、ゴールキーパーの功績によるところが大きい。

No.272『ひけらかす』⇒得意そうに見せびらかす。

〔例文〕 成績が優秀でありながら、それをひけらかすそぶりもない。

No.273『億劫（おっくう）』⇒面倒で気が進まない様子。

〔例文〕 今日は疲れ果ててしまい食事をするのも億劫だ。

No.274『駆使（くし）』⇒思いのままに使いこなすこと。

〔例文〕 彼女は想像力を駆使して壮大な物語を書き上げた。

No.275『壯観（そうかん）』⇒規模が大きくてすばらしいこと。また、その眺め。

〔例文〕 苦勞して登ったかいがあって、頂上からの眺めは壯観だった。

No.276『鉄則（てっそく）』⇒変えることのできない厳しい規則・法則。

〔例文〕 我が家には食事中にテレビを見てはいけないという鉄則がある。

No.277『うっそう』⇒あたりが暗くなるほど樹木が茂っている様子。

〔例文〕 いつの間にか、うっそうとした森の中に迷い込んでしまった。

No.278『すし詰め』⇒すしを折箱に詰めるように、多くの人や物がすき間なくいっぱいに入っていること。

〔例文〕 演奏が始まるころには会場はすし詰め状態だった。

No.279『付け焼刃（つけやきば）』⇒一時の間に合わせに、にわか仕込みで知識や技術などを身につけること。

〔例文〕 付け焼刃の知識ではまるで歯が立たなかった。

No.280『矢継ぎ早（やつぎばや）』⇒続けざまにすばやく物事を行うこと。

〔例文〕 教室に入ったとたん、みんなから矢継ぎ早に質問が飛んできた。

No.281『立つ瀬（たつせ）』⇒自分の立場。面目（めんぼく）。

〔例文〕 助けた人に裏切られて立つ瀬がない。

No.282『潔い（いさぎよい）』⇒卑怯な点や未練がましいところがなく、立派である。

〔例文〕 負けを潔く認めたことで彼の評価はむしろ上がった。

No.283『誇示（こじ）』⇒誇らしげに見せびらかすこと。

〔例文〕 彼女のファッションはまるで足の長さを誇示しているかのようだった。

No.284『素地（そじ）』⇒手を加えないもともとの性質。

〔例文〕 みんなを引っ張っていくリーダーシップは、もともとの彼の素地である。

No.285『風潮（ふうちょう）』⇒時代とともに変わっていく世の中の傾向。

[例文] 昔の悪しき風潮が徐々にかわりつつある。

No.286『台頭 (たいとう)』⇒あるものが勢いを増してくること。

[例文] 彼女たちのグループが台頭してきたことで、クラスのバランスがくずれつつある。

No.287『一辺倒 (いっぺんとう)』⇒もっぱらある方向だけにかたよること。

[例文] スポーツ一辺倒だった彼は、あの怪我を境にすっかり元気がなくなってしまった。

No.288『ひるむ』⇒おじけづいて勢いが弱まる。しりごみする。

[例文] ひるまずに立ち向かうことの大切さを教えてくれた。

No.289『健気 (けなげ)』⇒心がけがよく、しっかりしているさま。特に年少者や力の弱い者が困難なことに立ち向かっていくさま。

[例文] 道端に健気に咲く花を見ると勇気づけられる。

No.290『概ね (おおむね)』⇒だいたい。おおよそ。

[例文] 式は概ね予定通り行われた。

No.291『身も蓋 (ふた) もない』⇒あらわに表現しすぎて、含みや味わいがない。

[例文] 彼の実も蓋もない発言で、すっかり場がしらけてしまった。

No.292『元来 (がんらい)』⇒初めからその状態や性質である様子。もともと。そもそも。

[例文] 彼は元来、物静かな性格だ。

No.293『漠然 (ぼくぜん)』⇒ぼんやりとして、とらえどころのない様子。はっきりしない様子。

[例文] 彼の質問は漠然としていてわかりづらい。

No.294『人心地 (ひとごち)』⇒無事に生きているという気持ち。緊張が解けてほっとした気持ち。

[例文] なんとか辿り着けて、ようやく人心地がついた。

No.295『横柄 (おうへい)』⇒偉そうな態度で、人を見下す様子。

[例文] 子供だからといって、横柄な態度をとられた。

No.296『物々 (ものもの) しい』⇒いかにも嚴重で厳しい態度をとっているように思わせる様子。

[例文] 会場には多くの警備員がいて物々しい雰囲気だった。

No.297『得意満面』⇒誇らしげな様子が顔全体に現れること。

[例文] 優勝旗を掲げて、チームのみんなは得意満面な様子だった。

No.298『突拍子 (とっぴょうし) もない』⇒調子が外れている。並はずれている。

[例文] 彼の突拍子もない発想にはいつも驚かされる。

No.299『おうむ返し』⇒人の言ったことばをそのまま返すこと。

[例文] あまり関わりたくなかったので、適当におうむ返しに答えておいた。

No.300『歴然 (れきぜん)』⇒はっきりしていて疑いのない様子。

[例文] いくら頑張ったところで、やはり中学生との差は歴然だった。



No.301『顕著（けんちょ）』⇒際立って目立つこと。著しいこと。

〔例文〕中学生になってから、彼の人当たりの激しさが顕著になってきた。

No.302『当初（とうしょ）』⇒そのことのはじめ。

〔例文〕開店当初はとても繁盛していたが、次第に客足が遠のいていった。

No.303『興（きょう）じる』⇒おもしろがって楽しむ。

〔例文〕祖父が将棋に興じている姿が思い出される。

No.304『浮（うわ）つく』⇒うきうきして落ち着かなくなる。また、重厚さを失って軽薄になる。

〔例文〕当時はすべてがうまくいっていて、気持ちが浮ついていた。

No.305『念入り（ねんいり）』⇒細かい点にまで注意を払って、ていねいにする様子。

〔例文〕あの頃の私は、嫌われないように念入りに笑顔の練習をしていた。

No.306『洗いざらい』⇒隠したり残したりしたものがなくなるまで何かをする様子。残らず全部。

〔例文〕不安な気持ちを洗いざらいノートに書きだした。

No.307『出だし』⇒物事の始まり。すべり出し。

〔例文〕彼との出会いは出だしから奇妙なものだった。

No.308『無数（むすう）』⇒数えきれないほど多いこと。

〔例文〕冬の夜空には無数の星が見える。

No.309『のどか』⇒静かでおだやかな様子。のんびりと落ち着いている様子。

〔例文〕絵に描いたようなのどかな田園風景が広がっている。

No.310『ふんだんに』⇒あまるほどたくさんある様子。

〔例文〕孤独になると時間がふんだんに生まれる。

No.311『所狭し（ところせまし）と』⇒いかにも狭くて窮屈だといった様子。

〔例文〕昔ながらの風景が残るその街には住宅が所狭しと建ち並んでいる。

No.312『堅苦しい（かたくるしい）』⇒形式ばって、窮屈である様子。

〔例文〕入学式からもう3か月もたつのに、彼だけは堅苦しい表情を崩さないでいる。

No.313『めばしい』⇒多くの中で、特に目立っている。取り上げる価値のある。

〔例文〕自分には人に自慢できるようなめばしい才能がないと思っていた。

No.314『性分（しょうぶん）』⇒生まれつきの性質。たち。

〔例文〕彼女は思ったことを口にせずにはいられない性分だ。

No.315『面食らう (めんくらう)』⇒不意の出来事に驚きあわてる。予想もしなかったことにまごつく。

[例文] まさかの反撃に僕はすっかり面食らってしまった。

No.316『稀有 (けう)』⇒めったにないこと。

[例文] 私の母校は今でもなぎなた部がある稀有な学校だ。

No.317『とりえ』⇒とりたててすぐれたところ。長所。

[例文] 冷静さがとりえの彼が、珍しく取り乱していた。

No.318『オーソドックス』⇒正統的・伝統的である様子。

[例文] 彼女はあの学校のオーソドックスな制服に憧れているようだ。

No.319『建設的』⇒物事を積極的によくしていこうとする様子。

[例文] どんなに馬鹿げた意見でも否定しないことで、建設的な話し合いができる。

No.320『人当たり (ひとあたり)』⇒他人と接するときの態度。また、そのとき相手に与える感じ。

[例文] 彼の人当たりの良さは母親譲りだ。

No.321『そぐわない』⇒似つかわしくない。ふさわしくない。

[例文] 入学式の日、その場にそぐわない気がして居心地が悪かった。

No.322『時折 (ときおり)』⇒ときどき。たまたま。

[例文] わが剣道部は、時折、卒業生が訪ねてきて稽古をつけてくれる。

No.323『我が物顔 (わがものがお)』⇒それが自分の所有物あるいは領域であるかのような顔つきや態度で振る舞うこと。

[例文] かつて僕たちが毎日使っていたグラウンドは、今ではサッカー部が我が物顔で使っている。

No.324『語気 (ごき)』⇒話す言葉の調子や勢い。

[例文] 反論されて、自分でも驚くほど語気が強くなってしまった。

No.325『誘う (いざなう)』⇒呼びかけて目指す方へ連れ出す。さそう。

[例文] ピアノの音色に誘われて、気が付くと音楽室の前に立っていた。

No.326『ふてくされる』⇒不平・不満があって投げやりな態度や反抗的な態度をとる。

[例文] 弟はいったんふてくされると手のつけようがない。

No.327『理詰め (りづめ)』⇒思考・議論などを理屈でおしすすめること。

[例文] 理詰めで説得しようとする態度に余計に腹が立つ。

No.328『愛想 (あいそ) 笑い』⇒相手の機嫌をとるような笑い。

[例文] 大人に対しては愛想笑いをする癖がしみついてしまった。

No.329『恐縮 (きょうしゅく)』⇒申し訳なく思い、恐れ入ること。

[例文] 自分の思い違いだと気が付いて、父は恐縮しきりだった。

No.330『とっておき』⇒いざというときのために大切にとっておくこと。また、そのもの。

[例文] その日はとっておきの靴を履いて出かけた。



No.331『頬張る（ほおばる）』⇒ほおがふくらむほど口いっぱい食べ物をつくむ。

〔例文〕寮からもどった僕は、久しぶりの母の手料理を口いっぱいに頬張った。

No.332『羅列（られつ）』⇒ずらりと並べること。また、ずらりと並ぶこと。

〔例文〕難解な数式の羅列に気が遠くなった。

No.333『清々しい（すがすがしい）』⇒すっきりしていて人を心地よくさせる様子。

〔例文〕勝負には負けたけれど、どこか清々しい気持ちになった。

No.334『神々しい（こうごうしい）』⇒気高くておごそかな様子。

〔例文〕その神社の境内には、樹齢100年の大木が神々しく枝葉を広げている。

No.335『滅多に（めったに）』⇒まれにしかない様子。ほとんど起こらない様子。

〔例文〕滅多に涙を見せない彼女が泣いているなんてよほどのことがあったのだろう。

No.336『迷走（めいそう）』⇒（比喩的に）物事の進むべき方向が定まらず、結論がなかなか出ないこと。

〔例文〕彼は周りの空気を読み過ぎて、キャラが迷走している。

No.337『たやすい』⇒手間もなく楽に行える様子。

〔例文〕SNSは使いかたによっては、たやすく人を傷つけてしまう。

No.338『くつろぐ』⇒心身を休めたり、窮屈な姿勢・服装をやめたりして、ゆったりした気分になる。

〔例文〕いつも忙しい母は週末もくつろぐ時間がない。

No.339『立ちすくむ』⇒驚きや恐怖のために、立ったまま動けなくなる。

〔例文〕彼女の素晴らしい作品を目（ま）の当たりにして、ただ立ちすくむしかなかった。

No.340『存亡（そんぼう）』⇒存続するか、滅びるかということ。

〔例文〕今年も新入部員が入らないと、いよいようちの部も存亡の危機を迎える。

No.341『呆気（あっけ）ない』⇒物事の結果が意外に貧弱・簡単で、もの足りない様子。

〔例文〕青春のすべてをかけてきた陸上生活は、怪我によって呆気なく終わりを告げた。

No.342『有数（ゆうすう）』⇒取り上げて数えるほど主だっていること。

〔例文〕僕らの町は、日本有数の漁港を抱える漁師町だ。

No.343『辛辣（しんらつ）』⇒きわめて手きびしいこと。

〔例文〕いつもは辛辣な評価をする先生も今回ばかりは褒めるしかなかった。

No.344『素知らぬ（そしらぬ）』⇒知っているのに知らないふりをする様子。

〔例文〕僕が困っているのはわかっていたはずなのに、みんなは素知らぬ態度だった。

No.345『あたふた』⇒急ぎあわてる様子。

〔例文〕嘘をついていたことがバレて彼はあたふたと立ち去っていった。

No.346『道々（みちみち）』⇒道を行く途中で物事をする様子。道を行きながら。

[例文] あの頃、私たちは道道、お互いの将来の夢を語りながら学校に通った。

No.347『よそよそしい』⇒態度が他人行儀で、親しみを示さない様子。

[例文] 今までのよそよそしさがウソのように話が弾んだ。

No.348『根こそぎ』⇒余すところなく。ことごとく。

[例文] 彼女の演奏は、僕の自信を根こそぎ奪うほど素晴らしかった。

No.349『拮抗（きっこう）』⇒ほぼ同じ勢力や力をもって、互いに対抗して張り合うこと。

[例文] 彼と僕の実力は拮抗していると思っていたが、大間違いだった。

No.350『折り入って（おりいって）』⇒深く心を込めて。ぜひとも。

[例文] 父に折り入って話があると訪ねてきたおじさんの顔は固くこわばっていた。

No.351『しっぺがえし』⇒即座に仕返しをすること。

[例文] 僕の軽はずみな行動で手痛いしっぺ返しを受けることとなった。

No.352『かねがね』⇒以前からずっと。かねて。

[例文] かねがね感じていた不安が現実のものとなった。

No.353『いそいそ』⇒心が浮き立って、動作が軽やかな様子。

[例文] 新商品が出たと聞いて、いそいそとコンビニにアイスを買いに出かけた。

No.354『一段落（いちだんらく）』⇒一つの区切りまで物事が片づくこと。

[例文] ようやく一段落ついたと思った矢先に、新たな問題が持ち上がった。

No.355『じれったい』⇒物事が思うようにならなくて、もどかしい気持ちだ。

[例文] なかなか自分の意見を言わない彼を見ているとじれったい気持ちになる。

No.356『がむしゃら』⇒一つの目的に向かって夢中で取り組むさま。

[例文] がむしゃらに夢へと突き進む彼女を見ていると羨ましくなる。

No.357『さりげない』⇒はっきりした考えや深い意図もなくふるまう様子。また、そう見えるようにふるまう様子。

[例文] 自分の気持ちを悟られないようにさりげなく話しかけた。

No.358『しばし』⇒少しの間。しばらく。

[例文] あまりの驚きに、しばし声も出なかった。

No.359『耳打ち』⇒相手の耳もとに口を寄せて、こっそり話すこと。

[例文] すれ違った2人組が、一瞬、僕を見てなにやら耳打ちしていた。

No.360『俊敏（しゅんびん）』⇒頭の働きが鋭く、行動がすばやいこと。

[例文] 彼の俊敏な動きに誰もついていけない。



No.361『つかの間』⇒ごく短い間。ちょっとの間。

[例文] ほっとしたのもつかの間、事態は急変した。

No.362『面持ち (おももち)』⇒ (気持ちが表れている) 顔つき。

[例文] 出番が近づくとつれ、クラスみんなは緊張の面持ちにかわっていった。

No.363『現 (げん) に』⇒単なる話題や推測ではなく、現実である様子。実際に。

[例文] 彼女の次の試合にかかる意気込みは相当なもので、現に今日も朝一番に来て練習をしている。

No.364『予兆 (よちょう)』⇒何かが起こることを予感させる前ぶれ。

[例文] 今にして思えば、彼のあの時の発言がクラス崩壊の予兆だったのかもしれない。

No.365『のうのう』⇒何の心配もなくのんびりしている様子。

[例文] チームメイトが必死に練習しているのに、怪我をしているとはいえ、自分だけがのうのうとしていていいのだろうか。

No.366『早合点 (はやがてん)』⇒まだよく理解していないのに、わかったと思込む。

[例文] ただ、ふざけ合っていただけなのに、喧嘩をしていると早合点された。

No.367『力任せ (ちからまかせ)』⇒力だけをたよりに物事を行うこと。あるかぎりの力を出して事をなすこと。

[例文] 父が力任せに引っ張ってくれたおかげで事故に巻き込まれずに済んだ。

No.368『だだっぴろい』⇒必要以上に広い様子。ただやたらに広い。

[例文] 全ての荷物を運び出した後の部屋は、だだっぴろく感じられた。

No.369『ところどころ』⇒あちこち。

[例文] 完璧に仕上げたつもりが、ところどころに間違いがあった。

No.370『何気 (なにげ) なく』⇒はっきりした考えや深い意図もなくふるまう様子。

[例文] その何気ない一言が、どれだけ私を傷つけただろうか。

No.371『いいなり』⇒人の言うとおりに従うこと。言うがまま。

[例文] 担任の先生は、ずる賢いクラスのリーダーのいいなりになってしまっている。

No.372『ひたむき』⇒もっぱら一つのことだけに心を向ける様子。

[例文] どうてい叶わない夢をひたむきに追いかける彼を見ていると胸が痛む。

No.373『横着 (おうちゃく)』⇒楽をしてことをすまそうとすること。

[例文] 横着したせいで、余計にめんどくさいことになってしまった。

No.374『物心 (ものごころ)』⇒世の中の道理や人情などを理解する心。

[例文] 物心ついた時には、家じゅうに音楽があふれていた。

No.375『手はず』⇒物事を行う際にあらかじめ決めておく手順。前もってしておく準備。

[例文] 必ずしも手はず通りにいくとは限らない。

No.376『もちきり』⇒その話題が、ある期間中ずっと続くこと。

[例文] 登校すると、クラスは先生が結婚するという噂でもちきりだった。

No.377『ずば抜ける』⇒標準をはるかに超えている。なみはずれていて、すぐれている。

[例文] 彼女の記憶力は昔からずば抜けていた。

No.378『滅入る (めいる)』⇒気分が沈む。憂鬱 (ゆううつ) になる。

[例文] また今日も、彼の自慢話を聞かされると思うと気が滅入る。

No.379『歓声 (かんせい)』⇒喜びのあまり叫ぶ声。

[例文] 彼女は何か伝えようとしていたが、歓声にかき消されて聞き取ることができなかった。

No.380『きっぱり』⇒言動が明確である様子。

[例文] あの時の僕には、きっぱりと断る勇気がなかった。

No.381『甲高い (かんだかい)』⇒声の調子が高く鋭い様子。

[例文] 甲高い声に驚いて振り返ると、今まさに交通事故が起きたところだった。

No.382『不敵 (ふてき)』⇒大胆で、ものを恐れないこと。乱暴で無法なこと。

[例文] 帰り際に浮かべた彼の不敵な笑みが頭から離れない。

No.383『めっぼう』⇒程度がはなはだしい様子。

[例文] 彼は、体も大きくて喧嘩も強いのに、怖い話にはめっぼう弱い。

No.384『幾分 (いくぶん) か』⇒数量・程度が少ない様子。いくらか。一部分。

[例文] たった1週間会わなかっただけなのに、幾分か成長したように見える。

No.385『スパート』⇒競争・競泳などで、ある地点から全速力を出すこと。

[例文] 彼女はスパートをかけるなら、この場所だと心に決めていた。

No.386『吹きさらし』⇒囲いやおおいがなくて風が吹きあたるままになっていること。また、その場所。

[例文] 彼は公園の吹きさらしのベンチに、身を固くしてすわっていた。

No.387『屁理屈 (へりくつ)』⇒道理に合わない理屈。無理にこじつけた理屈。

[例文] いつもなら屁理屈をこねるだろうに、今度ばかりはみんなの意見に素直に従った。

No.388『凝視 (ぎょうし)』⇒目をこらして、じっと見つめること。

[例文] 僕の発言が気に入らなかったのか、彼女は僕の顔をしばらく凝視していた。

No.389『内心 (ないしん)』⇒表面には出さない気持ち。心のうち。

[例文] 表面的には仲良くしているが、お互いに内心どう思っているかわからない。

No.390『遂行 (すいこう)』⇒物事を最後までやりとおすこと。

[例文] 無理やり押しつけられた役目をただ遂行するしかなかった。



No.391『手こずる』⇒扱いに困る。もてあます。

[例文] 何かにつけて言い返してくる彼に、先生もだいぶ手こずっているようだ。

No.392『奇しくも（くしくも）』⇒偶然にも。不思議にも。

[例文] 大ケガをして、陸上競技を続けられなくなったその日は、奇しくも、私の誕生日だった。

No.393『曲がりなりに』⇒完全ではないが。どうにかこうにか。

[例文] 強豪校ではなかったけれど、曲がりなりに部長を務めたことは、私の自信になっている。

No.394『途端（とたん）』⇒あることが行われたちょうどその時。

[例文] 彼が教室に入ってきた途端、騒がしかった教室の空気が一変した。

No.395『颯爽（さっそう）』⇒姿・態度・行動などがすっきりとして、見た目にさわやかな様子。

[例文] 颯爽と走る兄の姿に憧れて、僕は陸上部に入部した。

No.396『逸材（いつざい）』⇒優れた才能。また、それを持つ人。

[例文] 彼は逸材だと騒がれているが、その隠れた努力を僕は知っている。

No.397『風貌（ふうぼう）』⇒身なりや顔つきなど外から見たその人の様子。

[例文] 彼は、その風貌からは想像もつかないほど繊細な心の持ち主だ。

No.398『執り行う（とりおこなう）』⇒行事・式典などを改まて行う。

[例文] その式典は、昔ながらの形式にのっとって執り行われた。

No.399『ひいては』⇒それがもとになって、その結果。

[例文] その言葉は、私、ひいては家族までも傷つけるものだった。

No.400『やりくり』⇒いろいろと工夫して都合をつけること。

[例文] 彼女は部活を3つも掛け持ちしているが、どうやって時間をやりくりしているのだろう。

No.401『あくせく』⇒休む間もなく動き続ける様子。

[例文] みんなの為にあくせく働いたにもかかわらず、感謝されず空しい。

No.402『ちらほら』⇒あちこちにまばらにある様子。また、たまにある様子。

[例文] 最初は、部員からの信頼が厚かったキャプテンだが、時が経つにつれ、ちらほら不満の声が聞こえてきた。

No.403『いでたち』⇒外出などの、身じたく。また、みなり。

[例文] 休日に見かけた彼は、制服姿とは打って変わって、派手ないでたちをしていた。

No.404『仲裁（ちゅうさい）』⇒争っている両者の間に入って、和解させること。

[例文] 彼女が仲裁に入ると、たいていのケンカはおさまってしまう。

No.405『愛着(あいちゃく)』⇒心がひかれて、大切にしたい、手放したくないと思うこと。

[例文] 不本意ながら入学した学校だったが、6年間も通うと、さすがに愛着がわくものだ。

No.406『いびつ』⇒形がゆがんでいること。また、人の心や物事の状態が正常でないこと。

[例文] 激しい嫉妬によって、だんだん自分の心がいびつになっていくのがわかる。

No.407『過程(かてい)』⇒物事が進行・変化して行く一連の道筋。

[例文] 成長していく過程で、気の合う友達も次第に変わっていくものだ。

No.408『みなぎる』⇒力・意志・感情などがあふれるほどいっぱいになる。

[例文] 厳しい練習をやりぬいた今、自信がみなぎっているのが自分でもわかる。

No.409『ちぐはぐ』⇒対になるべきものがそろっていないこと。また、物事がくいちがって調和がとれていないこと。

[例文] 彼らのやりとりはどうもちぐはぐだ。どちらかが嘘をついているのだろう。

No.410『頻度(ひんど)』⇒ある事が繰り返して起こる度合い。

[例文] 怪我をきっかけに部活に顔を出す頻度がめっきり減ってしまった。

No.411『気後れ(きおくれ)』⇒相手の勢いや雰囲気によって圧倒されて心がひるむこと。

[例文] 新しいクラスは活発な人が多く、気後れしていたが、思いの外すぐに馴染むことができた。

No.412『間柄(あいだがら)』⇒人と人の関係。

[例文] よく、君たちは付き合っているの?と聞かれるが、そんな間柄じゃなくただの幼馴染だ。

No.413『たむろする』⇒人が一か所に群れ集まる。

[例文] ケガをした選手を心配して、バスケット部の部員たちは下校時刻を過ぎても校門のあたりにたむろしていた。

No.414『煌びやか(きらびやか)』⇒輝くばかりに華やかで美しい様子。

[例文] 煌びやかな衣装に身を包んだ彼は、まるで別人に見えた。

No.415『殊に(ことに)』⇒特に。とりわけ。

[例文] 彼女はIT全般に詳しいが、殊にプログラミングに関しては専門家並みだ。

No.416『うつらうつら』⇒眠気などで、意識がはっきりしない様子。

[例文] 部活がハードすぎて、弟は夕食の最中にも、うつらうつらしていた。

No.417『慈しむ(いつくしむ)』⇒弱い立場のものを、愛情を持って大切にする。

[例文] 彼女を見ていると、よほど慈しみ深く育てられたのだろうと感じる。

No.418『憤然(ふんぜん)』⇒激しく怒る様子。

[例文] 職員室で何を言われたのか、彼女は憤然とした表情で戻ってきた。

No.419『足繁く(あししげく)』⇒ひんぱんに通う様子。

[例文] 一日も早く上達したくて、先生のところに足繁く通った。

No.420『絶好(ぜっこう)』⇒物事をするのに、この上なくよいこと。

[例文] 僕らは、絶好のチャンスをみすみす逃してしまった。



No.421『厚意（こうい）』⇒ある人に対する思いやりの厚い気持ち（自分ではなく、相手の気持ちについてというのが一般的）。

〔例文〕 友だちのお母さんの厚意に甘えて、その日は泊めてもらうことにした。

No.422『独断（どくだん）』⇒自分の考えだけで勝手に物事を決めること。また、その判断。

〔例文〕 何でも独断で決めちゃうキャプテンに不満の声が上がっている。

No.423『郷愁（きょうしゅう）』⇒ふるさとを懐かしく思う気持ち。また、過去のものや失われたものを懐かしく思う気持ち。

〔例文〕 彼の描いた絵は、多くの人の郷愁を誘った。

No.424『彼方（かなた）』⇒話し手から遠くに離れた方向や場所。

〔例文〕 私は、どこか遠い彼方まで行ってしまいたい気持ちになった。

No.425『世相（せそう）』⇒世の中のありさま。社会の風潮。

〔例文〕 結婚相手に求めるものは、世相を反映して変わっていく。

No.426『挙句（あげく）』⇒ある物事を十分にしたすえに。

〔例文〕 どちらを買うかさんざん迷った挙句、どちらも買わなかった。

No.427『口ぶり』⇒話し方の様子。

〔例文〕 彼の挑発するような口ぶりが原因で、いつも言い合いになってしまう。

No.428『臆面（おくめん）』⇒気おくれした様子。

〔例文〕 よくもまあ、臆面もなくそんなことが言えたものだ。

No.429『凛々しい（りりしい）』⇒容姿や態度がきりりとひきしまっている様子。

〔例文〕 故郷を離れ、東京に出ると決心した彼の横顔は凛々しかった。

No.430『まじまじ』⇒目をすえて、じっと見つめる様子。

〔例文〕 いるはずのない彼がそこにいて、私は思わず彼の顔をまじまじと見つめた。

No.431『物色（ぶっしょく）』⇒多くのものの中から適当な人や物を探し出すこと。

〔例文〕 新しく部活を立ちあげるにあたって、彼は日頃から根性のありそうな人物を物色していた。

No.432『気詰まり（きづまり）』⇒周囲に気兼ねをして、きゅうくつに感じるこ

〔例文〕 彼女といると、共通の話題がないこともあり、気詰まりになってしまう。

No.433『動転（どうてん）』⇒驚き、あわてて平静を失うこと。

〔例文〕 あまりの動転ぶりに声をかけることもできなかった。

No.434『引け目（ひけめ）』⇒自分は他人より劣っているという気持ち。また、劣っていると思う点。

〔例文〕 何をやってもうまくこなしてしまう姉に、私は子供のころからずっと引け目を感じて

いた。

No.435『相容れない (あいいれない)』⇒二つの立場や考えが相反して、一緒に成り立たない。

[例文] 社交的な彼と孤独を好む彼とでは相容れるはずもなかった。

No.436『真偽 (しんぎ)』⇒まことといつわり。本当かうそか。

[例文] 彼女は自信満々に言うけれど、真偽の程はわからない。

No.437『目深 (まぶか)』⇒帽子などを、目が隠れるほど深くかぶる様子。

[例文] 涙があふれそうになり、あわてて帽子を目深にかぶり直した。

No.438『いかつい』⇒かどばってごつごつした様子。

[例文] いかつい男子部員に混じっても、彼女の強さは際立っていた。

No.439『もってこい』⇒最もふさわしい様子。

[例文] 隠れて練習するには、この公園はもってこいの場所だ。

No.440『気長 (きなが)』⇒のんびりしていて、あせらないこと。

[例文] そんな気長なことでは、ライバルたちとの差は開く一方だ。

No.441『順当 (じゅんとう)』⇒順序や道理にかなっていて、そうなるのが当然であること。

[例文] お互い順当に勝ち上がり、約束通り、決勝で顔を合わせるようになった。

No.442『恒例 (こうれい)』⇒儀式や行事がいつもと同じように行われること。

[例文] 俳句部では、引退の日に今までの想いを込めた一句を読むのが恒例になっている。

No.443『詮索 (せんさく)』⇒細かいところまで調べ求めること。

[例文] 部活を辞めた理由をあれこれと詮索されるのが苦痛だった。

No.444『あいにく』⇒物事が予想通りに進まなくて、残念だという気持ち。

[例文] 熱心に水泳部に誘ってくれたが、あいにく私はカナヅチなのだ。

No.445『真っ先 (まっさき)』⇒いちばん先であること。一番はじめ。

[例文] 合格の文字を見て、真っ先に浮かんだのが母の顔だった。

No.446『賢明 (けんめい)』⇒賢くて的確な判断が下せる様子。

[例文] 賢明な彼女のことだから、ここは任せても大丈夫だろう。

No.447『後ずさり』⇒恐れたり、警戒したりして、前を向いたまま少しずつ後ろへ下がること。

[例文] 彼女の本性を目の当たりにして、私は思わず後ずさりした。

No.448『経緯 (けいゐ)』⇒物事の筋道。いきさつ。

[例文] どうしてこんなことになってしまったのか、その経緯を知りたい。

No.449『かいつまむ』⇒要点だけを取り出してまとめる。

[例文] 動揺する彼に変わって、私が状況をかいつまんで説明した。

No.450『手際 (てぎわ)』⇒物事を処理するやり方、手腕・技量。

[例文] さすが、ボーイスカウト経験者だけあって、彼は手際よくテントを張った。



No.451『終始（しゅうし）』⇒始めから終わりまで、ずっと。

〔例文〕優勝して当然の大会で準優勝となり、表彰式で選手たちは終始うつむいたままだった。

No.452『対照的（たいしょうてき）』⇒二つのものの違いが際立って認められる様子。

〔例文〕同じ環境で育ったのに、強いリーダーシップを発揮する妹とは対照的に、私は人についていくタイプだ。

No.453『投げやり』⇒物事を途中で投げすてておくこと。どうしてもよいというような無責任な態度をとること。

〔例文〕ライバルに大差で負けてしまったことがきっかけで、彼は投げやりな態度をとるようになった。

No.454『皆無（かいむ）』⇒まったくないこと。

〔例文〕誰の話しかけにも応じなかったことで、今や彼女に話しかけるクラスメイトは皆無に近い。

No.455『物騒（ぶっそう）』⇒危険な感じがすること。おだやかでないこと。

〔例文〕付き合い友人が変わったせいかな、彼は時折、物騒な言葉を使うようになった。

No.456『界限（かいわい）』⇒そのあたり一帯。

〔例文〕彼女はこの界限では知らない人がいないほど立派な家に住んでいる。

No.457『懲りる（こりる）』⇒失敗などを悔いて、もう二度とすまいという気持ちになる。

〔例文〕今回のことで少しは懲りたかと思ったけれど、彼女はまるで反省している様子がない。

No.458『遠巻き（とおまき）』⇒近寄らないで、離れたまま周りを取り囲むこと。

〔例文〕クラスで喧嘩が始まったのに、みんなは止めることもなく遠巻きに見ていた。

No.459『憎まれ口』⇒人から憎まれるようなことを言うこと。また、そのことば。

〔例文〕彼らを見ていると、憎まれ口を言い合いながらも、お互いのことを信頼していることがわかる。

No.460『即座（そくざ）に』⇒その場ですぐ。

〔例文〕うちの学校にもやっと鉄道研究会ができると聞いて、即座に入部を決めた。

No.461『一心（いっしん）に』⇒心を一つに集中させる様子。

〔例文〕しばらく黙り込んでいた彼女は、思いついたように一心に筆を走らせた。

No.462『相（あい）まって』⇒互いが作用し合って。

〔例文〕もともと話しかけやすいタイプなのに柔和な表情も相まって彼はクラス一の人気者だ。

No.463『匹敵（ひってき）』⇒比べたとき、価値・能力などが同程度であること。

〔例文〕計算力で彼女に匹敵する人はこの学校にはいないだろう。

No.464『形跡（けいせき）』⇒何か物事が行われたあと。

〔例文〕消された黒板には何かを書きなぐった形跡が残っていた。

No.465『もったいぶる』⇒重々しく、また仰々しくふるまう。

〔例文〕マネージャーは新しいユニホームのデザインをもったいぶって教えてくれない。

No.466『前置き（まえおき）』⇒本題・本論に入る前に関連することばなどを述べること。また、そのことばや文章。

〔例文〕いざ彼女の前に立つと、なかなか本題を切り出せずに前置きが長くなってしまう。

No.467『立て続け』⇒同じことや似たようなことが続けて行われる様子。

〔例文〕立て続けにけが人が出たことで顧問の先生の責任が問われている。

No.468『しわがれた』⇒声がうるおいをなくして、がさがさした感じになる。

〔例文〕心が折れてしまい、しわがれた声で返事をするのがやっとだった。

No.469『まばら』⇒数が少なくて間がすいている様子。

〔例文〕朝の早い時間帯は登校する生徒の姿もまばらだ。

No.470『縦横無尽（じゅうおうむじん）』⇒この上なく自由自在であること。

〔例文〕舞台の上を縦横無尽に動きまわる彼女は生き生きとして見えた。

No.471『飄々（ひょうひょう）とした』⇒性格・態度などが世間ばなれしていて、とらえどころがない様子。

〔例文〕ささいなことで気持ちが揺れ動いてしまう私から見ると、いつもひょうひょうとして
いる彼がうらやましい。

No.472『滑稽（こっけい）』⇒おかしかったりばかばかしかったりして、笑いの対象になること。

〔例文〕当時は滑稽としか思えなかった彼の意見が、今は正しかったことがわかる。

No.473『そびやかす』⇒肩などをことさら高く上げる。

〔例文〕まるで何も気にしていないかのように彼は肩をそびやかした。

No.474『ちやほや』⇒おだてるなどして機嫌をとり、甘やかす様子。

〔例文〕ちやほやされて育ったあいつには僕の気持ちはわからないだろう。

No.475『涙ぐましい』⇒涙が出そうなほど、心に強く訴えるものがある様子。

〔例文〕我ながら涙ぐましい努力も報われず、3年間レギュラーに選ばれる事はなかった。

No.476『薄々（うすうす）』⇒はっきりとはしないが、いくらかはわかる様子。

〔例文〕それが彼の本心では無い事はみんなうすうす気がついていた。

No.477『そぞろ歩く』⇒これと言った考えや理由もなく歩きまわること。

〔例文〕引っ越していく彼を見送った後、僕たちはあてもなくそぞろ歩いた。

No.478『やみつぎ』⇒物事に熱中してやめられなくなること。

〔例文〕仕方なく自分の弁当を作ったことがきっかけで、料理が病みつぎになった。

No.479『訝（いぶか）る』⇒疑わしく思う。怪しく思う。

〔例文〕私が急になれなれしく話しかけたので、彼女はいぶかしげな表情を浮かべた。

No.480『あらかじめ』⇒事に備えて事前に。前もって。

〔例文〕あの子を連れてくるつもりだったなら、あらかじめ言っておいて欲しかった。



No.481『飛び交う（とびかう）』⇒多くのものが入り乱れて飛ぶ。

[例文] 彼が説明も否定もしないことで、ますます悪い噂が飛び交ってしまう。

No.482『見つくろう』⇒適当なものを選んでととのえる。

[例文] さすが親友だけあって、彼女が見つくろってくれた本はどれも私好みだった。

No.483『すんなり』⇒抵抗がなく、順調に事が運ぶ様子。

[例文] てっきり断られるかと思ったが、先生は僕たちの部の顧問をすんなり引き受けてくれた。

No.484『原動力（げんどうりょく）』⇒活動や活力のもとになる力。

[例文] あの試合に負けた悔しさが、一心不乱に練習に取り組む原動力になっている。

No.485『堪能（たんのう）』⇒十分に満足すること。

[例文] いつもはスマホで聞いているミュージシャンの音楽を、ライブ会場でたっぷり堪能した。

No.486『ざっくばらん』⇒気取らないで率直に心情を表す様子。

[例文] ざっくばらんに厳しいことを言っても憎まれないのが、彼女の良いところだ。

No.487『人一倍（ひといちばい）』⇒普通の人以上であること。

[例文] 彼はなかなか褒められることがなかったので、他人に評価されたい気持ちが人一倍強い。

No.488『集大成（しゅうたいせい）』⇒多くのものを集めて一つにまとめること。

[例文] 今度のコンクールが3年間の集大成になるはずだった。

No.489『かぶりを振る』⇒頭を左右に振って否定する。

[例文] 彼は強い口調で『それは誤解だよ』と、かぶりを振った。

No.490『四六時中（しろくじちゅう）』⇒一日中。いつも。

[例文] コンクールが間近に迫り、頭の中で演奏曲が四六時中鳴り響いている。

No.491『わななく』⇒恐怖、緊張、怒りなどで体が震えること。

[例文] 怒りのあまり、体全体がわななくのを抑えることができなかった。

No.492『出し抜け（だしぬけ）』⇒突然、思いがけないことが起こること。いきなり。

[例文] 病院で出し抜けに声をかけられ、びっくりして振り返った。

No.493『失念（しつねん）』⇒うっかりして忘れること。

[例文] 集合場所が変更になったことを伝えなければいけなかったのに、失念してしまった。

No.494『気乗り（きのり）』⇒ある物事に興味がわき、進んでそれをしようという気持ちになること。

[例文] 今日、遊びに行くメンバーの中に、気の合わない友人がいることを知ってどうも気乗りがしない。

No.495『道すがら』⇒道を行く途中。道を行きながら。

[例文] 学校から帰る道すがら、なぜ彼があんなに怒ったのかずっと考えていた。

No.496『おどろおどろしい』⇒不気味で恐ろしい。凄まじい。

[例文] 緊張のあまり、舞台から見た客席はひどくオドロドロしく見えた。

No.497『一目（いちもく）置く』⇒自分よりすぐれた人に敬意を払う。

[例文] 全く目立たなかった僕だが、マラソン大会で優勝して以来、クラスの中で一目置かれるようになった。

No.498『相好（そうごう）を崩す』⇒にこやかな表情になる。顔をほころばせる。

[例文] さっきまであんなに怒っていたのに、みんなの笑顔に誘われて彼女は思わず相好を崩した。

No.499『無性（むしょう）に』⇒むやみに。やたらに。

[例文] 親に決めてもらわないと何もできない自分に無性に腹が立った。

No.500『圧巻（あっかん）』⇒勢ぞろいしたものの中で最もすぐれているもの。

[例文] 見事な走りだったが、中でも圧巻だったのは、5人のランナーをごぼう抜きにした場面だった。

No.501『平然（へいぜん）』⇒平気で落ち着いている様子。

[例文] こんな時に平然としていられるなんて、とても人間とは思えない。

No.502『小走り（こばしり）』⇒狭い歩幅で、走るように急いで行くこと。

[例文] 私が選抜メンバーに選ばれたのを知って、彼女は小走りで駆け寄ってきた。

No.503『自嘲（じちょう）』⇒自分で自分をつまらぬものとして軽蔑すること。

[例文] 彼の活躍を本心で喜べない自分に自嘲するしかなかった。

No.504『拙（つたな）い』⇒ことを行うのがうまくない。下手である。

[例文] 拙いプレゼンだったが、彼の熱い思いに審査員が徐々に引き込まれていくのが分かった。

No.505『いつにない』⇒いつもと違ってしている様子。

[例文] 3年生は最後の大会とあって、いつになく緊張していた。

No.506『意欲的（いよくてき）』⇒積極的な気持ちを持って、物事をなすとげようとする様子。

[例文] 私が顧問になって以来、彼女ほど意欲的に取り組む生徒を見たことがない。

No.507『ためらう』⇒あれこれ迷ってぐずぐずする。

[例文] 彼を追い詰めてしまうのではないかと、本当のことを言うのをためらった。

No.508『息をのむ』⇒驚きや恐れのために一瞬息を止める。

[例文] ピアノを弾けるとは聞いていたが、あまりの技術の高さに誰もが息をのんだ。

No.509『言外（げんがい）』⇒言葉に出さない部分。

[例文] 惨敗した僕を見つめる彼の視線が、言外に僕の練習不足を指摘していた。

No.510『ほだされる』⇒情に引きつけられて、心や行動の自由が縛られる。

[例文] 必死に涙をこらえる彼の姿にほだされて、僕らは誰も彼を責めることができなかった。



No.511『強情（ごうじょう）』⇒人のことばを聞き入れず、どこまでも自分の考えや行動を押し通そうとすること。

[例文] あの時私が強情を張らなければ、今でも友達でいられたのだろうか。

No.512『細心（さいしん）』⇒こまかいところまで心を配ること。

[例文] 常に細心さを忘れない彼が、あんなミスをするなんて信じられない。

No.513『さておき』⇒さしおいて。別として。

[例文] どちらが正しいかはさておき、今は彼女の意見を聞いておいたほうがよさそうだ。

No.514『とりわけ』⇒特に。ことに。

[例文] 子供の頃からとりわけ友人が多いわけではなかった私は、ひとりであることが苦にならない。

No.515『ふてぶてしい』⇒開き直っていてずうずうしい様子。

[例文] 彼女はいじめの中心人物であったにもかかわらず、親の影に隠れてふてぶてしい笑みを浮かべていた。

No.516『端々（はしばし）』⇒あちこちの部分。

[例文] 彼の仕草の端々から自信のなさがにじみ出ている。

No.517『よもや』⇒ほとんどありえないという気持ちを表す。まさか。

[例文] 彼女が僕のことを嫌っているなんて、よもや、想像もしなかった。

No.518『均衡（きんこう）』⇒力や数量などの釣り合いがとれていること。

[例文] 転校生の登場でクラスの中で保たれていた均衡が崩れ始めた。

No.519『並外れる（なみはずれる）』⇒普通とは目立って違っている。

[例文] あれだけ並外れた技術を持ちながら、どうしてピアノをやめてしまったのだろうか。

No.520『踵（きびす）を返す』⇒後戻りする。引き返す。

[例文] 昨日のことをまだ根に持っているらしく、彼女は僕を見るなり踵を返して駆け出した。

No.521『そつ』⇒不注意な点。不十分な点。むだ。

[例文] 仲の良い友達の中で彼だけは大人へのそつのない対応を心得ている。

No.522『眉（まゆ）をひそめる』⇒他人の嫌な行為に不快を感じて顔をしかめる。

[例文] いつも同じ服を着ている彼に対して、クラスの女の子たちはまゆをひそめていた。

No.523『頻繁（ひんぱん）』⇒しきりに行われること。たびたび繰り返されること。

[例文] 転校生が来て以来、彼は僕を口実に頻繁に教室に顔を出すようになった。

No.524『慄（おのの）く』⇒恐怖や興奮などで体が震える。

[例文] あまりの大役を任されて、彼はおののいていた。

No.525『癢（しゃく）に障（さわ）る』⇒気に入らないことがあってカチンと来ること。

[例文] 全然練習していないのに、レギュラーに選ばれて当然と言う顔をしているところがしゃくにさわる。

No.526『毒（どく）づく』⇒はげしく相手を罵る。

[例文] 「綺麗事言いやがって」と、僕は心の中で毒づいた。

No.527『咎（とが）める』⇒過ちや罪を指摘し非難する。

[例文] 彼女がどんな悪さをしてでも誰も咎めることができなかった。

No.528『出鼻（でばな）をくじく』⇒やり始めたばかりのところで、邪魔が入ったり中断を余儀なくされること。

[例文] 今度ばかりは喧嘩になってもいいと腹を決めたが、彼の素直な反応に出鼻をくじかれた。

No.529『さなか』⇒ある状態がもっとも著しいとき。最中。

[例文] チームメイトが勝利の喜びに浸っているさなかにも、キャプテンだけは次の試合のことを考え始めていた。

No.530『首尾（しゅび）よく』⇒うまいぐあいに。

[例文] 今回のプロジェクトは難題が山積していてとても首尾よく終わるとは思えない。

No.531『きびきび』⇒動作がすばやく、生き生きとしてむだがない様子。

[例文] 以前とは違ったキビキビとした口調や動作から、彼女の成長がうかがえる。

No.532『切実（せつじつ）』⇒わが身に直接さし迫って来ること。

[例文] 修学旅行で誰と同じ班になるのかは、僕にとってとても切実な問題だ。

No.533『おこがましい』⇒身の程知らずなこと。

[例文] 僕なんかがアドバイスするのはおこがましかったが、先輩は熱心に耳を傾けてくれた。

No.534『忌々（いまいま）しい』⇒非常に腹立たしく感じる。

[例文] 私にないものを全て持っている彼女を見ると忌々しい気持ちになる。

No.535『ゆくゆくは』⇒行く末。将来。

[例文] クラスのみんなが、彼女はゆくゆくはプロのピアニストになるだろうと思っていた。

No.536『感慨（かんがい）』⇒心に深く感じて、しみじみした思いになること。

[例文] 入部当初は右も左もわからずにおろおろしていた彼女が6年後に部長になるなんて感慨深い。

No.537『首肯（しゅこう）する』⇒うなづくこと。納得し賛成すること。

[例文] みんなから説得され彼はしぶしぶ首肯した。

No.538『浅はか』⇒考えが足りない様子。

[例文] 将来プロ野球選手になれると、小学生の僕は浅はかにも信じていた。

No.539『一瞥（いちべつ）』⇒ちらっと見る。

[例文] 彼は僕の方を一瞥もせずに立ち去っていった。

No.540『若干（じゃっかん）』⇒あまり大きくない数量・程度などを表す。

[例文] 僕たちの意見の違いは若干だったが、お互いに意地を張ってしまい歩み寄ることができなかった。



No.541『率先（そっせん）』⇒人の先に立って物事を行うこと。

〔例文〕先生に嫌がらせをする雰囲気率先して作っていたのが彼だった。

No.542『心して』⇒十分に注意して。よく心構えして。

〔例文〕これが先輩たちの高校最後の演奏になるので、心して聞こう。

No.543『しっくり』⇒物事や人の心がほどよく調和している様子。

〔例文〕いつもと同じ教室なのに、彼の大きな笑い声がないとどうもしっくりこない。

No.544『言いそびれる』⇒言い出す機会を失って言わないでしまう。

〔例文〕ずっと言いそびれていた感謝の言葉を、今日やっと伝えることができた。

No.545『寡黙（かもく）』⇒口数が少ないこと。

〔例文〕最初は寡黙な印象だった彼も、毎日顔を合わせるうちに徐々に話してくれるようになった。

No.546『目新（めあたらしい）』⇒今まで見たことがない。

〔例文〕校則の厳しい僕らの学校の中では、自由に振る舞う彼は目新しい存在だった。

No.547『口々（くちぐち）に』⇒大勢の人がそれぞれものを言うこと。

〔例文〕あの頃僕たちは、部活帰りに最後の大会にかける想いを口々に語っていた。

No.548『出くわす』⇒たまたま出会う。偶然に会う。

〔例文〕よりによって私が泣いているときに、ライバルに出くわしてしまった。

No.549『壮大（そうだい）な』⇒大きくて、りっぱなこと。

〔例文〕全国大会出場という壮大な目標を掲げて、僕たちは新しい部を立ち上げた。

No.550『意気揚々（いきようよう）』⇒得意で誇らしげな様子。

〔例文〕優勝はできなかったが、ベストを尽くした彼らには意気揚々と帰ってきて欲しい。

No.551『手放（てばなし）』⇒遠慮や気兼ねをしないこと。

〔例文〕レギュラーになれなかった人たちのことを考えると手放しに喜べない。

No.552『不承不承（ふしょうぶしょう）』⇒気の進まないままに行う様子。

〔例文〕不承不承引き受けた部長だったが、今となってはやってみて良かったと思っている。

No.553『聡明（そうめい）』⇒理解力・判断力にすぐれ、かしこいこと。

〔例文〕優しく聡明な部長は、下級生の憧れの的だ。

No.554『意気投合（いきとうごう）』⇒互いに気持ちが一致すること。

〔例文〕彼女の事はちょっと苦手だったけれど、好きなバンドの話ですっかり意気投合した。

No.555『うろたえる』⇒思いがけないことに驚き取り乱す。

〔例文〕ずっと隠してきた本音を言い当てられて、うろたえてしまった。

No.556『せがむ』⇒しつこく頼る。ねだる。

〔例文〕私とは違って妹は親にせがむのがうまい。

No.557『とっさ』⇒きわめて短い時間。瞬時。

〔例文〕その話を聞いたときにとっさに頭に浮かんだのは、彼の寂しげな後ろ姿だった。

No.558『ありふれる』⇒平凡でどこにでもある。

〔例文〕こんな時にありふれた言葉しかかけてあげられない自分が情けない。

No.559『はぐらかす』⇒相手の追及を逃れようとして話の焦点をずらす。

〔例文〕転校してきた理由を聞いても、彼ははぐらかすばかりだった。

No.560『しばしば』⇒何度もくり返される様子。たびたび。

〔例文〕当時は夕飯を食べられないことがしばしばあるほど苦しい生活だった。

No.561『おもねる』⇒人の気に入られるようにふるまう。へつらう。

〔例文〕クラスの権力者におもねるぐらいだったら無視されたほうがマシだ。

No.562『板につく』⇒経験を積んで、動作・態度・服装などがいかにもそれに似合ったものになる。

〔例文〕いつも家で料理をしているだけあって、彼の包丁さばきは板についていた。

No.563『試練（しれん）』⇒心の強さや実力の程度が厳しくためられるような苦しみ。

〔例文〕唯一の理解者である友人を失ったことが、当時の私には最大の試練だった。

No.564『上目遣（うわめづか）い』⇒顔は動かさないうで目だけを上に向けて相手を見ること。

主に照れや引け目を感じている様子をあらわす。

〔例文〕大喧嘩をした翌日、彼女は上目遣いでおはようと小声でつぶやいた。

No.565『それとなく』⇒それとはっきり示さずに。遠まわしに。

〔例文〕こういう場合は、それとなく聞き出そうとするものだが、彼はストレートに質問してきた。

No.566『見かねる』⇒黙って見ていることができない。

〔例文〕上級生に問い詰められて困っている彼を見かねて、思い切って声をかけたのがきっかけだった。

No.567『段取り』⇒事がうまく運ぶように手はずを整えること。

〔例文〕先輩たちが段取りをつけてくれたおかげで、無事に演奏会を終えることができた。

No.568『うずく』⇒ずきずきと痛む。物語では主に心の痛みをあらわす。

〔例文〕私のせいで怪我をしてしまった彼の傷跡を見るたびに胸の奥が疼く。

No.569『この期（ご）に及（およ）んで』⇒今となっては遅すぎるという気持ちを表す。

〔例文〕この後に及んで、まだ謝ろうとしない彼をクラスのみんなは白い目で見ていた。

No.570『むさくるしい』⇒散らかっていてだらしない様子。

〔例文〕むさ苦しい部室だろうと覚悟していたが、意外にも小綺麗で整理されていた。



No.571『落ちぶれる』⇒みじめな状態になる。

[例文] かわいそうだと同情されるほど、私は落ちぶれていない。

No.572『にべもない』⇒愛想がない。そっけない。

[例文] どんなに頑張ったとしても結果が全てだと、彼女はにべもなく言った。

No.573『物おじ』⇒何かを恐れて尻込みすること。

[例文] 経験を積んだことで以前よりも物怖じせずに意見を言えるようになった。

No.574『煙たい』⇒うっとうしく感じる。

[例文] 私は学級委員の責任を果たしているだけなのに、周りからは煙たがられてしまう。

No.575『ぶっきらぼう』⇒物の言い方や態度に愛想がないこと。

[例文] いつもぶっきらぼうな彼から、そんな優しい言葉が出るなんて思いもしなかった。

No.576『裏腹に』⇒相反していること。あべこべ。

[例文] 仲良くなりたいと言う気持ちとは裏腹に、冷たい態度をとってしまう。

No.577『端（はな）から』⇒最初から。

[例文] 悔しいことに、僕たちのチームは端から相手にされていなかった。

No.578『造作もない』⇒たいしたことない。楽勝。

[例文] 人の心をつかむのが上手な彼女にとっては、彼を仲間に取り込むのは造作もないことだ。

No.579『憚（はばか）る』⇒ためらう。遠慮する。

[例文] 彼女は人目を憚ることなく大粒の涙を流した。

No.580『蔑（さげす）む』⇒見下す。軽蔑する。

[例文] 必死に食らいつく私を彼女は蔑むような目で見ていた。

No.581『勤（いそ）しむ』⇒熱心に励むこと。

[例文] 全体練習ができない日は、各自のパート練習にいそしんだ。

No.582『息を殺す』⇒呼吸の音もさせないで静かにしている。

[例文] 僕は両親の会話をドア越しに息を殺して聞いていた。

No.583『肝（きも）に命（めい）じる』⇒決して忘れないように強く心に刻むこと。

[例文] 2度と同じ間違いを繰り返さないように肝に銘じておこう。

No.584『性懲（しょうこ）りもなく』⇒過去の過ちを懲りずに繰り返すこと。

[例文] マネージャーはいらないと何度も言ったのに、彼女は性懲りもなく毎日グラウンドに顔を出した。

No.585『品定（しなさだ）め』⇒人や物の良しあしを判定すること。

[例文] 彼女は私を品定めするように、頭から足の先までじろりと見た。

No.586『お手のもの』⇒慣れていて得意であること。

[例文] 雪国出身の彼にとっては、雪の上をスタスタ歩くのはお手の物だ。

No.587『独（ひと）りよがり』⇒自分だけで良いと決め込んで他人の意見を無視すること。

[例文] 案の定、独りよがり自分勝手な彼の意見に賛成する者は誰もいなかった。

No.588『あぐねる』⇒物事を思い通りに進められないでいる様子。

[例文] 傷ついた彼女にどんな言葉をかけてあげればいいのか思いあぐねていた。

No.589『よぎる』⇒感情などが心の中に浮かぶ。

[例文] いっそのことそのまま知らないふりをしようかと悪い考えが一瞬頭をよぎった。

No.590『堰（せき）を切る』⇒こらえていたものが一気に溢れ出す様子。

[例文] 私は部長の顔を見た途端に、堰を切ったように泣き出してしまった。

No.591『項垂（うなだ）れる』⇒失望や悲しみのために力なくうつむく。

[例文] あと1歩で入賞を逃したことを知り、うなだれた先輩たちの姿を忘れることができない。

No.592『淡々（たんたん）と』⇒感情の変化がなく、冷静に事を進める様子。

[例文] 厳しい練習メニューを淡々とこなしている彼女を見ていると到底かなわないと思し
らされる。

No.593『かましい』⇒うるさい。やかましい。

[例文] かましい教室とは対照的に、図書室は水を打ったように静かだった。

No.594『神妙（しんみょう）な』⇒素直でおとなしい様子。

[例文] 普段は騒がしい男子たちも、戦争の語り部の方の話を神妙な面持ちで聞いていた。

No.595『腑（ふ）に落ちる』⇒納得がいくこと。

[例文] どうして彼女が遅い時間にあんな場所にいたのかどうも腑に落ちない。

No.596『虚を突かれる』⇒油断しているところにつけ込まれること。

[例文] 鋭い質問に嘘をつかれた僕は、頭が真っ白になり発表を続けることができなかった。

No.597『打ちひしがれる』⇒精神的なショックを受けて力をなくすこと。

[例文] 命の次に大事にしていたギターを取り上げられて、彼は打ちひしがれたままだ。

No.598『めいめいに』⇒それぞれに。

[例文] 大きな模造紙にめいめいが自由に絵を書き始めた。

No.599『有無を言わず』⇒合意なく物事を強制する様子。

[例文] ピアノの経験があると言うだけで、有無を言わずコンクールの伴奏者にされてしま
った。

No.600『間髪を入れず』⇒少しの時間も置かずに。すぐに。

[例文] 僕はその知らせを聞いて、間髪を入れず教室を飛び出した。

中学受験鉄人会